

平成29年度 第2回甲賀市総合教育会議（議事録）

1. 開催日時 平成29年11月13日（月）

開 会 9時30分

閉 会 11時10分

2. 開催場所 市役所水口庁舎会議室301A

3. 議題 (1) 甲賀市教育大綱の改定について

4. 出席委員 岩永市長、山下教育長、山田教育長職務代理者、藤田委員、今井委員、松山委員

5. 出席事務局員 市長公室長、総合政策部次長、秘書課長、政策推進課長補佐、同課係長
教育部長、教育次長（管理担当）、教育次長（指導担当）、教育次長（学校教育担当）、
教育総務課長、
同課長補佐

6. 傍聴者 0名

7. 議事の内容 別紙のとおり

○事務局 ただ今から、平成29年度第2回甲賀市総合教育会議を開会いたします。
 まず初めに、甲賀市市民憲章を唱和いたします。恐れ入りますが、ご起立をお願いいたします。

【全員起立し市民憲章唱和】

ありがとうございました。ご着席ください。
開会にあたりまして、本会議の議長でもあります岩永市長がご挨拶を申し上げます。

○岩永市長 皆様、おはようございます。委員の皆様方には、ご多用にも関わりませずご参集を賜り誠にありがとうございます。また、日頃から本市の教育振興にご尽力をいただいておりますこと、重ねてお礼を申し上げます。近頃は、朝夕の寒さが一段と厳しくなっております。どうかご健康にはご留意いただきますようお願い申し上げます。

 秋は実りの季節と言われています。各地域では多くの文化祭やスポーツの祭典が催され、市民の皆様が日ごろの成果を披露いただく賑やかな季節となっております。

 先月の甲賀市青少年健全育成市民大会では、中学生や高校生による吹奏楽や書道パフォーマンス、意見発表が行われ、子どもたちのひたむきな姿に胸を熱くしたところです。

 今月5日には、第31回あいの土山マラソンが開催され、全国各地から3,386人の参加をいただき、アップダウンの多い過酷なコースにも関わらず、参加者の皆さんの顔は生き生きと輝いていました。また、開催にあたっては、地元の皆様に多大なご協力をいただき、感謝の気持ちを述べさせていただきました。

 本市の教育施策は、夢や志の実現に向けてがんばる子どもたち、また、生涯にわたり、努力、挑戦を続ける皆さんを、後押ししていくものでありたいと感じたところです。

 本日の総合教育会議では、前回会議に引き続き、甲賀市教育大綱の改定に向けて、ご協議を賜りたいと考えております。子どもたちをとりまく環境も日々めまぐるしく変化していく中で、「子育てNo.1」をめざす本市ならではの綱としてまとめ上げたいと考えていますので、委員の皆様方におかれては、忌憚のないご意見、活発なご議論をいただきますようお願い申し上げ、冒頭のご挨拶に代えさせていただきます。

 本日はよろしく申し上げます。

○事務局 それでは早速、本日の議題に入ります。甲賀市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により、議長は市長が行うこととなっておりますので、市長、議事の進行をお願いいたします。

○岩永市長 それでは、議題に入ります。協議事項の①甲賀市教育大綱の改定について、事務局より説明をお願いします。

○事務局 資料1に基づきまして、甲賀市教育大綱の改定について説明いたします。

【甲賀市教育大綱の改定について説明】

- 岩永市長　それでは、資料1の順番に沿って原案に対するご意見を賜りたいと存じます。1ページ目の「はじめに」について、ご意見ををお願いします。
- 藤田委員　先日、若いお母さんたちとお話をした際に、「みんな違ってそれでいい」というフレーズに共感をしたとお聞きしました。そこで、このようなフレーズを大綱に組み入れられないか、子育てや教育のキャッチフレーズとして使えないかと思いましたがいかがでしょうか。
- 岩永市長　最近「多様性」や「ダイバーシティ」という言葉がよく使われています。他人と認め合うと言う意味で使われていて、この改定案の「はじめに」の下から3行目の「自分らしく生きることができる」につながる言葉であると思います。
- 事務局　「みんな違ってそれでいい」という視点は、6ページの「道徳教育」の注釈にある「豊かな心と感性を育む道徳教育の推進」、「人権教育」の注釈にある「いのちを大切にし、人間の尊厳を基本とする、人が輝く人権教育」という言葉で包括されていると考えますが、具体的に「みんな違ってそれでいい」と言うフレーズは使っていません。
- 山田教育長職務代理者　入れるのであれば、「はじめに」のページに記載せずに、6ページの注釈に記載したほうが良いと思います。
- 山下教育長　藤田委員のご意見は、道徳教育や人権教育の個別施策の注釈に入れるのではなく、皆さんの心に響くキャッチフレーズとして「みんな違ってそれでいい」というような、やさしい言葉が必要であるという意見であったと思います。ただ、「自分らしく生きる」というフレーズも同じ意味なので、これを強調する方法もあると思います。
- 山田教育長職務代理者　文中の「オール甲賀」という言葉は、ここではどのような思いで使われていますか。
- 岩永市長　第2次甲賀市総合計画で使用している言葉であり、教育についても甲賀市のすべての人が自分のこととして関心を持ち、参加していただきたいという思いで使っています。
- 事務局　「オール甲賀」という言葉は、総合計画の基本計画のチャレンジプロジェクトにおいて「オール甲賀で未来につなぐ！チャレンジプロジェクト」として使用しており、これを改定案に準用しています。直訳すると「すべての市民で」という意味になります。
- 岩永市長　藤田委員のご意見については、教育長の意見を踏まえ、反映できるかどうか事務局で検

討をお願いします。「オール甲賀」という言葉については、総合計画との関連性を持たせていただくということでご理解いただけますでしょうか。

○山田教育長職務代理者 文章の語尾について、現在形や進行形、完了形などが混在しています。適切かどうか検討していただきたいと思います。

○事務局 再度、確認します。

○山下教育長 「オール甲賀」のフレーズについては、もう少し説明を加えた方がよいと思います。

○岩永市長 「改定にいたった経緯」を記述する位置は、ここよろしいか。

○山下教育長 「第2次甲賀市総合計画を策定したため、教育大綱も新しく作り変えた。」ということになりますので、記載する順番としては適切であると思います。

○岩永市長 次に3ページの教育方針についてご意見を賜りたいと思います。

○山田教育長職務代理者 1行目から2行目の「地域どうしのつながりや人と人との協力する文化」という表現に違和感があります。「協力する文化」とは、どのような意図で使用しているのでしょうか。

○事務局 冒頭に「甲賀郡中惣」という語句を使用したため、そのあとに「地域どうしのつながりや人と人との協力する文化」というフレーズを使いました。再度、検討します。

○今井委員 「文化」の代わりに、甲賀市の将来像にある「あいこうか いつもの暮らしに『しあわせ』を感じるまち」の「暮らし」、または「暮らしぶり」という語句を使えばどうでしょうか。

○事務局 検討します。また、「本市の将来像」という記述ですが、総合計画では「本市の未来像」ですので、総合計画に合わせます。そして、総合計画で定める「未来像」という説明も追加したいと思います。

○岩永市長 できるだけ分かりやすくなるように修正してください。

○藤田委員 目標を設定したために、ミスがあると叱責するという環境にならないように注意し、子どもたちがいろいろなことにチャレンジし、安心して失敗できる環境を作る視点が必要であると思います。

○山下教育長 下から2行目にある「たくましい心身」というフレーズの中に、そのような思いが含まれていると思います。

○藤田委員 若い世代の人は、具体的な言葉でないと動かない傾向があり、指示待ち人間が多いといわれています。抽象的な言葉だけでは足りない気がします。

○山田教育長職務代理者 教育大綱には、具体的な事柄を入れていくのは分量が多くなるので難しいと思います。

○松山委員 「みんな違ってそれでいい」や「世界にひとつだけの花」という言葉があるように、同じ先生に教わっても、同じ家に育っても、同じように育つとは限りません。基本方針は同じでも、自然と様々な違いをもつ人間が育っていくということがあってよいと思います。甲賀市の方針として、しっかりした核となるものを定めて、現場では個々の先生の判断で柔軟に対応いただければよいと思います。

○岩永市長 藤田委員のご意見につきましては、大綱では噛み砕いて具体的な表現にまで落とし込むことは難しいため、個々の施策に落とし込んでいきたいと思います。
それでは、4ページ目の教育目標についてご意見を賜りたいと思います。

○山下教育長 文言としてはこれでよいと思います。甲賀市の抱えている課題の一つとして、特別な支援を必要とする子どもが増えてきております。そのような子どもたちが学校の中で大切にされながら、また、インクルーシブ教育という言葉がありますように、子どもたちがそれぞれの良さを生かしながら、地域の学校に通うことができ、子どもたちが社会に出てからも、甲賀市はそのような対応ができている環境であって欲しいと思います。

また、増加している外国籍の子どもたちへの対応や、地域の高齢者が幼児教育を担う地域学習、いじめ問題など、教育目標1の「ともに学び ともに育ち ともに生きる」の中には、本市が取り組んでいかなければならない点がたくさん含まれており、教育目標1は非常に大事な目標であると思います。

教育目標3については、甲賀市のことをどれだけ知っているのかということで、私も含めて甲賀市を知る機会を作る取組が必要であると思います。

○岩永市長 教育目標3の中にある「まちの魅力を世界に誇れる人」とは、どういう意味でしょうか。グローバル化が進み、郷土を良く知っていないと自分の立ち位置が分からない時代で、しっかり郷土愛を育て地域に誇りを持つ人でしょうか。それともまちの魅力を知って世界に宣伝できる人なんでしょうか。

○事務局 自分の住んでいる地域の良さをしっかりとアピールできる人という思いを込めています。

- 山下教育長 「世界に発信する」ということで言えば、ツールとしてのICT教育や英語教育について触れており、それらを利用して世界に情報を発信することは重要であると思います。しかし、その前段の、ふるさとを愛する心を育み、まちを愛するだけではなく、もう一歩進んでその思いを伝えられる人を育てることがより重要であると思います。
- 今井委員 住んでいる人が思う魅力と外部から来た人が思う魅力には、ずれがあります。住んでいてもなかなか気づかない魅力もあると思います。
- 岩永市長 郷土愛は大切なものです。地元から外に出ると、自分の地域のことを分かっていないと何もしゃべれません。地域の歴史や自分の価値観、誰に育てられ、何に感謝をして生きてきたのかを語れなくなります。海外に出るとさらに重要になると思います。
- 松山委員 私は単純に文章のとおり、甲賀市のことをよく知ること、その次に、他のまちと比べて良い点を知ること、それを市外の人、そして海外の人にも説明できる人を育てることが大切であると思います。宣伝でもなく、自慢でもなく、甲賀市についてしっかりと話すことができる人を育てられたら良いと思います。
- 事務局 個人としての経験ですが、以前、中国を訪問したときに、中国の大学生は中国に誇りを持っていました。中国に比べて日本はどうかかと思い、反省しました。自分の地域に誇りを持ち、それを違う世界の人や甲賀市以外の日本人に、堂々と自信を持って発信できる力が必要であると思いました。「誇る」という表現は、セールスだけではないと思います。
- 藤田委員 誇りというものは持とうと思って持つものではなく、その地域に住んでいる中で、人間関係や環境を含めて醸成されるものであり、甲賀市の歴史を知ること大切であると思います。
- 松山委員 先ほどの事務局からの、中国の大学生と比較したお話は納得できました。
- 岩永市長 今までのご意見をまとめていただき、分かりやすい表現に修正してください。次に5、6ページの教育方針についてご意見を賜りたいと思います。
- 松山委員 前回の案では、「こころの教育」の中にあつた「道徳教育」と「人権教育」が、それぞれ別々の項目になっていますが、その理由を教えてください。
- 山下教育長 人権教育の担当から、道徳教育はこころの教育に当てはまるが、人権教育はこころの教育だけではなく、具体的、実践的な取組も必要であるという意見がありました。差別に基づく生活環境、労働環境、賃金格差等の問題をこころの問題と捉えると、人権問題が小さく扱われる恐れがあるということでした。以上の点から道徳教育と人権教育を分けました。

○山田教育長職務代理者 道德教育の箇所は1行だけなので、前回の大纲にあったボランティア精神や絆という言葉を使ってはどうでしょうか。

○事務局 追加する方向で検討します。

○今井委員 人権教育の箇所で「いのちを大切にし、」という記述がありますが、自分のいのち、他人のいのち、もちろん両方であると思いますが、表現的に「自分のいのち」の方が大事であるように受け取れます。「いのちの大切さを知り」の方が自分と他人のいのちの両方を大切に表現になると思います。

○事務局 表現について検討します。

○今井委員 4ページの教育目標2にも「命を大切にし、」という表現がありますので、こちらも検討をお願いします。

○山下教育長 「いのち」の表記が、4ページは漢字、6ページはひらがなになっていますので、統一してください。

○山田教育長職務代理者 人権教育の箇所で地区別懇談会・人権教育連続セミナーは抹消されていますが、どういうことでしょうか。

○事務局 人権教育の担当から、地区別懇談会・人権教育連続セミナーに限定した表現に受け取られるので削除したいとの意見がありました。

○岩永市長 活発なご意見をいただきましてありがとうございます。本日の議題は終了とさせていただきます。

○事務局 ありがとうございます。次回は、年内に開催する予定です。議題としては、教育大綱の改正案について今回のご意見を反映させ、決定したいと考えています。その後、3月議会の総務常任委員会、文教常任委員会に報告する予定です。

それでは最後に、閉会のご挨拶を山下教育長からお願いします。

○山下教育長 本日は、何かとお忙しい中、本会議にご出席賜りありがとうございます。甲賀市教育大綱の改定に関しまして、熱心なご協議を賜り誠にありがとうございました。本日の議論で概ね皆様の同意が得られたと思います。

自分の未来も社会の未来もたくましく切り拓く人を育てていくためには、市長部局と教育委員会が共通の目標を持ち、市の施策、教育施策を進めていかなければなりません。そ

の意味でも教育大綱の持つ意味は大変重要であると考えております。今後、議会への報告を行いながら、市民の皆様へも広く周知していく必要があります。行政のみの教育大綱ではなく、市民すべての教育大綱です。しっかりと教育大綱が活かされるように取組をしていただくことをお願いし、閉会の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。